

- 委員：企画展を年一回できたらよいと考えるが、毎年することはできるか。
- 事務局：以前は企画展を毎年していたが、経費節減や学芸員が2人から1人に減ったことで毎年開催することが困難になった。人員が安定的に学芸員2人体制をとれるのであれば毎年企画展をすることは可能ではないかと考える。
- 委員：今後は体制をとって予算も確保して毎年やっていくような検討をしていくということではよろしいか。
- 事務局：そのような要望を出していきたい。
- 会長：来年の企画展について、どのような内容を考えているか。
- 事務局：具体的に決定はしていないが、市民学芸スタッフの活動が今年で20年になるので、それを企画展にできないかと考えている。
- 委員：小展示について、戦後80周年の記念展の内容を教えてください。
- 事務局：企画展ほど調査に時間をとれないため、簡単な内容になると思うが、市内関係の資料を使って展示していきたい。具体的には決まっていないが、例えば、戦地からの手紙などのやり取りからどんなものが見えてくるかということができればと考えている。
- 委員：「小金牧と白井」の図録が販売されているが、6月に販売開始で残部僅少となっているが、どのような状況か。
- 事務局：残部僅少については、企画展の無料解説冊子のことである。図録は3月末に完成し、販売方法を考えて販売できるようになったのが6月である。400部作成し、200部は県内の博物館などの施設に配布し、残り200部を今年度については販売する。
- 会長：図録が販売されていることについて、知らない方も多いのではないか。小金牧に関する資料だと興味を持たれる方が多いと思うが、宣伝が行きわたってないのではないか。
- 事務局：広報やホームページ、ラインに情報を載せている。県外からの問い合わせもあつたりする。
- 会長：地方史研究協議会などの学会誌へ新刊紹介はしているか。
- 事務局：行っていない。そのような広報もしていきたいと思う。

～以上で、令和7年度事業計画(案)についての質疑終了～

(3) 大規模改修基本計画策定業務の概要説明と市民アンケートの実施について

資料に基づき事務局(大規模改修準備室)より説明を行う

[主な質疑応答]

- 委員：郷土資料館の規模を縮小し、余剰面積を転用するということが、具体的にどういうことか。また、近隣自治体との広域連携等の方策を検討するということの詳細を知りたい。
- 準備室：展示室の規模縮小について具体的なことはこの方針では未定である。収蔵スペースについては現時点で資料があふれている状態であり、展示スペースを縮小して収蔵スペースに転用することのみ方針で示し、基本計画で具体化していきたい。広域連携についても、この方針では具体的には踏み込んでいない。基本計画でご意見を伺いながら具体的にしたいと考える。
- 委員：あり方の方針は書いてあるが、具体的なところは計画計画の中で決めていくということではよろしいか。
- 準備室：その通りである。
- 会長：文化センターは生涯学習の拠点であるという位置づけをしているが、白井市文化センター大規模改修計画策定イメージはすべて縮小の方向性である。生涯学習への支援や保障の後退につながるのではないか。大規模改修計画の策定イメージについて、大規模改修で達成したい事項の中に今後30年間を見据えた身の丈にあった管理運営とはどういうことか。また、施設整備・今後の運営手法(案)について民間連携を含めた整

備とある。郷土資料館ではしないと思いたいが、指定管理者を導入するということを考えているか。期待する効果について、同種同機能の抑制とは具体的にどういうことか。

館長：縮小の方針が後退にならないのかということについて、提示した案はあり方検討委員会の議論をもとに方針を作成したので、そのようになっている。但し、改修にあたっては、市民が利用しやすい施設を考えていきたい。30年間を見据えた身の丈に合った管理運営については、人口減少などを踏まえて長期的な視点で総合的に考えていきたい。

委員：文化センターは社会教育施設の機能を持つ複合施設であるが、新たに保育や福祉など他の機能が入る可能性があるのか。

準備室：他の機能が入ってくる可能性はある。基本計画策定の中で検討していく。

5. その他

事務局から特に報告はなし

6. 閉会

事務局：それでは、令和7年度第1回白井市郷土資料館運営協議会会議を閉会する。(終)